

ことばの景色

心に響く珠玉の言葉

「念すれば花ひらく」で知られる詩人・坂村真民さんは、愛媛県で高校の教師をしながら詩作に励みました。終のすみかを砥部に定めた真民さんは、この地で詩境を深め、詩人としての花を開かせました。

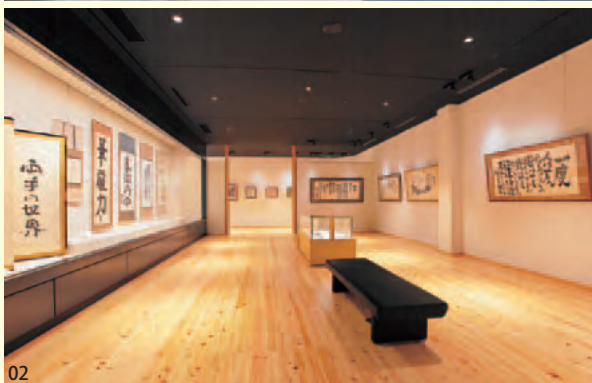
求道の人生から生まれた詩

熊本に生まれた坂村真民さんは、縁あって、昭和21年、37歳の時に一家で愛媛県三瓶町^{かみちよう}にやってきました。女学校の教師をしながら妻と幼い子ども3人を抱えた生活はひどく貧しく、吹き飛ばされそうな家は、蚊とノミとダニ、ナメクジやムカデに苦しめられるという暮らし。そんな極貧生活を笑い飛ばすかのような詩を詠む一方で、真実の自己をみつけないという人生の悩みに直面していました。

やがて転勤のために吉田へ居を移します。40代の真民さんは人生の真実をつかむべく、参禅したり経典を読んだりと厳しい鍛錬の



01



02

- 01 落ち着いた平屋の建物
- 02 清らかな空気あふれる展示室
- 03 真民さんはタンポポや朴の花を愛した。
記念館には朴の木が植樹されている

Words Resonating with the Heart
Sakamura Shinmin, a poet known for his “If you pray for realization of your dream, it will come true,” lived in Tobe Town to the end of his life and deepened his locally grounded flavor of poetry and flowered as a poet. In Tobe Town, his memorial hall is built.

道の道 黒鉄ヒロシ

解説書というか、説明書というか、はたまた心象風景ふうにまとめたというのか、『念ずれば花ひらく』として一冊を編むにあたって坂村真民さんの九十七年の人生を各資料からなぞってみた。一本の道が見えた。

思考を「道」にまで高めるにも、発想あるいはきっかけがあるはずで、全ての場合が人生特有の不条理の克復を目指している。不条理を解こうとする時、必ずや立ち塞がるのが言語との関係である。言語によってかけられた魔法を、同じ言語で解こうとする無理によって多くの道づくりは途中で放棄されるか、出来上っても陳腐なものとなる。

奇跡的に突破したヒトによって何本、何十本かの道が残った。出来、不出来と好悪はさて置き、キリストの道であり、仏陀の道であり、世界中の各宗教の道である。

ある者は科学にそれを求めようとし、またある者は美の中に探した。ここに百人のヒトあらば、百本が出現するはずなのに、道の数は減る。他者の道をなぞろうとするヒトのあり。

何故か他者の道を行く場合、ほとんどが他の道との対立を生じる。

真民さんは一本の道を残された。

今、我々は真民さんの道を行くのではなく、得るものはヒントに留め、我道を探し進むべきである。

百人のヒトがいて、百本の道ができる。

千人なら千本、万人なら万本の道ができてこそ、地上に絶対の平和と死を恐怖することのないユートピアが生まれる。

キリストも仏陀も、他の宗教も、思想哲学も、そして真民さんの説く道も、奥義は全てここに収斂する。

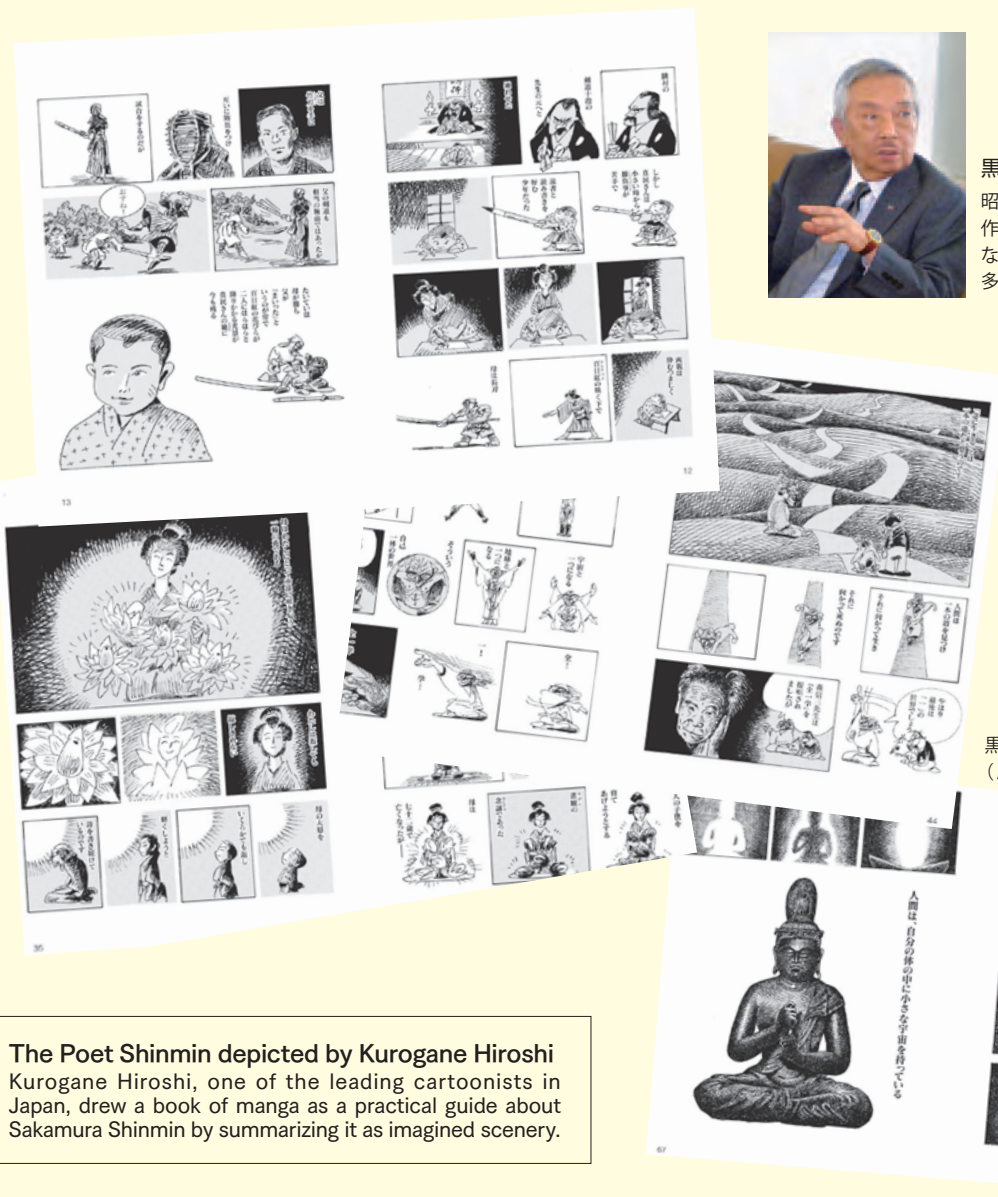


黒鉄ヒロシ プロフィール

昭和20年(1945)高知県生まれ。代表作に「新選組」「坂本龍馬」「赤兵衛」などがある。「千思万考」など著書も多数。平成16年紫綬褒章受章。



黒鉄ヒロシさんが描いた坂村真民さんの漫画 (A5判、72ページ 坂村真民記念館で販売。)



The Poet Shinmin depicted by Kurogane Hiroshi
Kurogane Hiroshi, one of the leading cartoonists in Japan, drew a book of manga as a practical guide about Sakamura Shinmin by summarizing it as imagined scenery.

民話の里ひろた物語

民話が語るいにしえの世界



01

物語に込められた昔の暮らしと心模様

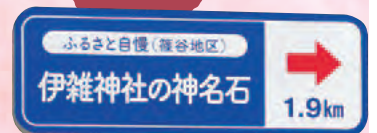
広田地区には数多くの民話が残されていることから、それらを通して地域住民のふるさと再発見に、また、地域の魅力を外部に発信して活性化につなげようと、平成24年度に「民話の里づくり」事業が行われました。

広田の民話を収めた冊子『民話の里 ひろた物語』は平成25年1月に発行されました。地区の主な民話20話が掲載されているほか、14カ所に設置された音声装置が一目で分かる「ひろたの民話地図」地区に9つある集落が先祖代々大切に守ってきた光景や文化財などから、たった一つを選んだ「お宝自慢」も掲載。手軽なハンディタイプの1冊は、広田めぐりのガイドブックの役割も果たしています。

そして、各所に置かれた音声装置では、冊子に掲載された1話2分の民話を、タレントらしくさぶろうさんの軽妙な語りで楽しむことができます。

道の駅ひろた「峡の館」の装置には全20話が入っており、他の装置では、その地域にちなんだ物語を中心に、3話ずつ収められています。

この音声装置に電源はありません。ハンドルを20回まわすと1話が再生される仕組みです。緑と水に恵まれた広田地区で、自然とともに生きてきた人々の暮らしが思いが込められた民話に、通りすがりの人が車を止め、のんびりと耳を傾ける光景が見られるようになります。



02

- 01 仙波溪谷の東屋に置かれた音声装置で、仙波にまつわる昔話に耳を傾ける子どもたち
- 02 音声装置は広田地区の14カ所に設置。1台に3話が収められ、電気を使わず、ハンドルを回してお話を聞くエコ仕様

Town of Folklores

In the Hirota District, folklores remain. Voice information devices are installed throughout the District as a town folklore project allowing locals and visitors to hear the tales.

column
民話の世界を
活字で味わう

冊子『民話の里 ひろた物語』には音声装置と同じお話が収められていますが、民話の世界をより深く味わうための注釈が付いています。砥部町役場、同広田支所、道の駅ひろた「峡の館」、文化会館などで販売(1冊200円)。

